

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南小泉児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 15,204 人 (前年度比 54.6 %) 令和元年度 27,861人 平成30年度 27,230人 平成29年度 27,456人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 34,573 千円 (31,729 千円) ・ その他市が負担した費用 0 千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>区役所に隣接し公共施設や学校などが集中する立地環境の強みを生かし、各種関係機関と連携しながら事業に取り組んでいます。特に、同じ施設内にある「のびすく若林」との連携では、「遊びのひろば」を開催したほか七夕やクリスマスなど季節の装飾にも共同で取り組みました。若林区中央市民センターと連携した「ポッチャ体験」、社会福祉協議会若林区事務所と連携した「冬のお楽しみ会」なども実施しました。「冬のお楽しみ会」はコロナ禍により行事が制限される中で乳幼児親子等の利用者からの期待も高く、盛況を収めました。例年実施してきた「ハロウィン」の行事は、コロナ禍により関係機関との連携を断念し、児童館単独開催となりましたが、小学生が楽しく活動に参加する姿が見られました。次年度は、従来通りの形で関係機関との連携協力を更に深めて開催できるようにしてまいります。</p> <p>子育て家庭支援事業では、年度途中で事業内容や対象年齢の見直しを図り、「なかよしひろば」「チョコベタひろば」「おはなしひろば」を開始しました。子育て支援クラブとの共催行事は希望者が多く、「UVレジンでアクセサリ作り」「スノードーム作り」は人気を博しました。児童健全育成事業では、小学生対象事業の充実をめざし、「若チュウタイム」「サクラマスプロジェクト」を行いました。また、子どもたちが運動に親しむ機会を設けるために、複合施設の利点を活かし「スポチャレ」「体育館であそぼう」を隔月で実施しました。放課後児童クラブでは、「子どもあそび委員会」を通して児童館での遊びや生活について子どもたち自身が考え、課題を解決する機会を与えるなど自律の育成を図ってきました。</p> <p>次年度は、今年度できなかった年間行事について、関係機関とより連携し、利用者のニーズに沿いながら事業を進めてまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、子どもの意見を取り入れて遊戯室での遊びを考えたり、子ども自身が遊びや勉強の時間を組み立て過ごせるようにする等して日常的な子どもの自主性を育む支援を大切にしている。また、児童館内の清掃や片付けの時間を取り、自分たちの過ごす場所を自分たちで快適にする経験を通して責任感や自立心を育てた。毎日の帰りの会では二年生以上がリーダーを担い、司会の他一日の振り返りを通して良かった点や反省点などを踏まえ発表する場を与えることで、子どもの自信を育てる取り組みとなっている。</p> <p>子育て家庭支援事業では、参加人数への制限があることから年齢別の行事から目的別の行事に見直しを図った。簡単工作に特化したものや季節の行事に特化したもの、読み聞かせ等の内容のものと、それぞれ参加している乳幼児の年齢差に配慮しながら楽しめる内容で開催している。</p> <p>近隣の関係機関との交流が多いため、コロナ禍においても情報交換などで連携を継続することが出来ており、様々な会議等の場で児童館運営についての報告や情報交換、意見交換ができています。連携事業としても「のびすく若林」と共催の「遊びの広場」や玄関の壁面装飾での協力、「冬のお楽しみ会」での社会福祉協議会の協力など、感染対策のため内容を工夫しながら行った。若林区中央市民センターの利用団体との交流は中止となったが、代わりに市民センター職員を講師に迎えて例年の交流事業「ポッチャ体験」を行い事業継続に努めた。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課